

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和6年度第2回）

開催日 令和6年11月11日(月)

場所 百周年中村記念館特別会議室、オンライン

出席者 【対面】梅寄委員、小笠原委員、高原委員、前田委員、宮武委員、村上委員（五十音順）

学長、理事（教育、学生担当）、理事（教育接続・連携PF、情報担当）、理事（研究、産学連携、経営戦略担当）、理事（渉外担当）、理事（コンプライアンス、D&I担当）、工学研究院長、生命体工学研究科長、教養教育院長

【オンライン】有松委員、鵜飼委員、情報工学研究院長（五十音順）

列席者 【対面】松田監事、林田監事

会議成立 構成員21名のところ、18名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

No.	種別	議題	結果	主な意見
議題 1	(審議事項)	人事院勧告に伴う給与改定等について	原案どおり承認	<p>○国からの予算には上限があるため、賃金を引き上げるには法人独自の努力が必要である。さらに、年収の分布や報酬と成果のバランスを考慮しつつ、戦略的な改善を期待したい。（学外委員） →法人の自助努力によって賃金の引き上げは可能であるが、国の資金を使う制約があるため難しい面もある。そのため、外部資金を効果的に活用し、一時金や給与待遇の改善を図りたい。また、年齢構成の課題に対して若手の確保や優秀な人材の待遇改善にも力を入れ、法人独自の戦略を推進していきたいと考えている。（学内委員）</p> <p>○福岡県の民間の初任給が高くなっているため、教育機関も競争力を維持し、良い人材を確保するための工夫が必要である。給与だけでなく、その他の魅力やメリットを示す必要がある。（学外委員）</p> <p>○人事院勧告を待つだけでなく、自主的に給与水準を見直すべきだと考える。例えば、組合のない小規模な組織では勧告が来ない場合もあるため、先回りして対応する必要がある。特に最近の民間の給与水準の上昇に対応するため、一定の調整を行い、人材確保のためにも世の中の変化に合わせた戦略が必要である。（学外委員） →人事院勧告はあくまで給与の基盤となるものであり、優秀な人材を確保するためには、勧告に加えて活躍した職員への待遇をどう強化するかも考え、戦略を立てる必要があると考えている。（学内委員）</p> <p>○すぐの結果は求めているが、施策の効果を長期的に評価し、人材が確保できるかどうかの指標が必要だと考えている。できれば定量化をして、優秀な人材が採用できるかどうかの評価指標を作るべきではないか。（学外委員） →採用状況は分野によって異なり、特にDX関連の人材採用は苦戦しているため、採用方法を見直している。教員の募集条件の柔軟化や一般職員の新卒・中途採用での傾向分析などを行い、数字で効果を確認しながら戦略を立てている。高倍率が一つの指標となり、傾向も見えてきていると考えている。（学内委員）</p>
議題 2	(審議事項)	就業規則の一部改正について	原案どおり承認	<p>○業務支援職員に対する期末手当の支給について、賛成である。自社でも正社員とパートに適切な手当を支給し、大きな差をつけないようにしているが、この方針は良いものだと感じている。（学外委員）</p>

No.	種別	議題	結果	主な意見
議題3	(報告事項)	令和8年度学部・大学院改組計画について		<p>○工学部の定員管理やコース分けの方法について質問したい。また、コース名についてはあまり難しくない名称にしてほしい。(学外委員) →学科の定員を全体で確保しつつ、コースについては内部定員となるため、配属時に内部で調整可能とすることが望ましいと考えている。工学部の場合は、入学時に希望する専門分野が決まっていない学生の受け皿として総合類を用意している。また、工学部では分かりやすさを重視してシンプルなコース名にする方向で議論が進んでいる。(学内委員)</p> <p>○全体の提案には反対ではないが、工学部の総合類の1年次のカリキュラムについて、2年次以降の専門コースに進む上でどのように設定するのか。(学外委員) →現在検討中であり、工学部の場合は1年次は共通科目が多く専門科目は少なめなので、進路変更には支障が出ないように調整は可能であると考えている。(学内委員)</p> <p>○提案には反対ではないが、今回の改組の目的が「社会・時代の動向に即応した教育の提供」となっているが、「社会・時代の動向を先取りした教育の提供」とするなど、時代の先を見据えた教育の方向性や、大学が選ばれるための目玉を明確にしてほしい。具体的には、受験生減少に対して大学の魅力をどうアピールするのか、優れた教授陣の採用と育成、また大学の将来的な強化を目指すメッセージが重要である。(学外委員) →大学が社会実装とイノベーションに力を入れる方針を示すことが大事だと認識している。人材育成においても、副プログラム等により、経営マインドや幅広い知識とスキルを持つ人材を育成していきたい。(学内委員)</p> <p>○九州工業大学では、経営は重要視するものの優先度としては二番目であり、最も重視すべきは専門分野の位置付けである。この専門性については十分な議論が必要である。(学外委員)</p> <p>○まず一般論から。多くの大学は、教員のための組織になっていて、カリキュラムが学生のニーズや成長に必ずしも合致していない。例として、英語教育。週1回の90分の授業がはたして適切か。外部の専門教育機関に委託することも考えても良いのではないか。九州工業大学においては他大学と差別化し、本当に専門性を極めたモデルを構築してはどうか。学生目線に立ったリベラルアーツや語学教育を提供し、学生の実質的な成長に寄与する改革を目指すべきではないか。(学外委員) →大学に要請されている新しいタイプの学生を育成するにあたって九州工業大学が欠けている点を強みに変えるために、副プログラムを設計してきた。学生が社会に出て実践的に活躍できるよう、リベラルアーツの要素を一部削り、副プログラムを通じて専門性と社会への意識を強化する取り組みを進めている。また、学生が社会課題を自ら発見し解決に導けるように、量的・質的調査の理解を深めるカリキュラムが重要である。さらに、グローバルな視野での英語力強化や、DXの時代に対応できる能力を身につけさせることが目標である。(学内委員)</p> <p>○平成30年の工学系教育改革制度設計等に関する懇談会において提案された将来の工学教育改革の方向性に沿った内容が今回の改組案に含まれている。学科の壁を取り払うことは、学生の定員管理だけでなく、教員の資格要件にも影響し、教員の流動性も促進される。また、工学以外の分野の学びを強化する方向があるが、これはリベラルアーツ的な教育か、工学教育の強化かで意見が分かるところである。九州工業大学では大学院が1専攻制であり、学部と大学院の接続を視野に入れた柔軟な組替えが可能となりつつあるが、今回の改組案には工学系についてはその部分があり見受けられなかったため、具体的な方針について質問したい。また、社会ニーズに即応する、あるいは先取りするような分野、専門性を強化する学位プログラムが改組案に視野に入っているかを確認したい。(学外委員) →九州工業大学は6年一貫教育を推進し、学部と大学院の接続性を強化するための取り組みを行っている。また、社会ニーズに応じた学位プログラムの設定についても議論は行われているが、現在資料としては示せていない。学位プログラムの具体的な融合についてはまだ検討が進んでいないが、研究センターでの領域融合が進めば自然と実現に近づく可能性がある。(学内委員)</p> <p>○日本の大学設置基準は100年以上ほとんど変わっておらず、学科の壁があるため、教員配置や学生定員もそれに従って決まってしまう。この壁を打破する方法として学位プログラムがあるものの、学位プログラムの設定には「1学科」というように学科の枠組みを変える体制が必要あり、今回の取り組みは、そのための第一歩だと考える。(学外委員)</p> <p>○情報工学部のもともとの物理情報工学科の2つのコースは、新しい4分野にどう組み込まれるのか。半導体などのトレンドに沿った見た目ではあるが、今後どのように変わっていくのか。(学外委員) →新しい改組で、情報工学部は成長4分野として再編成され、知能情報、電子情報通信、知的システム、生命情報の4分野に分かれる。物理情報工学科にあった2コースは、新しい分野の「電子情報通信」と「生命情報」に組み入れられ、物理情報の特色が新しい成長分野に反映される形となる。(学内委員)</p> <p>○工学部と情報工学部のコース名(例えばロボティクスなど)により受験生が迷い、ミスマッチが生じることはないか。また、学部間で2年次に転籍することは可能か。(学外委員) →学部間の移籍は現在の制度でも可能だが、実際に行う学生は少ない。入試では第1志望・第2志望を学部を超えて選択できる制度もあり、これを活用することで九州工業大学の工学部・情報工学部の両方を志望できるようにしている。(学内委員)</p>

No.	種別	議題	結果	主な意見
議題4	(報告事項)	戸畑キャンパス南側土地活用について		
議題5	(報告事項)	学生スタートアップによる成果発表		

No.	種別	議題	結果	主な意見
議題6	(報告事項)	ネジチョコプロジェクトについて		